# くらがの

発行所　倉賀野神社
〒370-1201
群馬県高崎市倉賀野町1263番地
電　話　027-346-2158
ＦＡＸ　027-346-2184
例祭（秋季大祭）10月19日
春季大祭　4月19日
公式ホームページ　www.chinju.info/

## ごあいさつ　宮司　髙木直明

春季例大祭の日を迎えました。氏子・崇敬者の皆様には予て神社の護持運営にご理解とご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

さていま、世界に起きている戦争に誰もが心を痛めています。惨禍に見舞われた人々が一日も早く平穏な日常に戻ることを願ってやみません。そして胸に手を当ててみると、私たちがこうして日々平和のもとに暮らしていることが如何にありがたいことか、との思いに至ります。

ことしの二月二十三日。天皇陛下の御誕生日のおことばに、「私たち一人一人が平和な世界を実現するために何ができるのか、改めて問われているのではないかと感じます。」とありました。国の繁栄と世界の平和を祈る陛下の大御心を戴いて私たち国民も、一日一日を大切に過ごしてまいりたいと思うのです。

今日の例大祭の御神前に、感謝と祈願の言葉を祝詞に申し上げ、参列の皆様と共々に玉串を捧げました次第です。

倉賀野神社　南大鳥居

祓詞の書写体験会。清らかな空気に包まれて、書写の時間がしずかに過ぎました。（３月、参集殿で）

## 卯年に因んで　御本殿彫刻「波に兎（なみにうさぎ）」

ご社殿の真後ろの瑞垣の隙間から覗くと、兎の彫刻が見えます。御本殿の縁下部分です。耳を伏せ波の上を跳ねて進む兎、また後ろを振り返る兎もいます。

波と兎とは不思議な組み合わせですが、よくいう「お月さまと兎」を想像すると、合点がいきます。お能の演目「竹生島」に、「月 海上に浮んでは 兎も波を走るか 面白の浦の景色や」と謡うとか。琵琶湖の水面にゆらぐ月の光を、波の上を走る兎にたとえたのでしょう。元気に跳躍するその姿にあやかりたいものです。

江戸末期におこなわれた御本殿の建替え工事の記録が残ります。彫物師の仕事を書きつけた当時の日記に、慶応二年（一八六六）の九月から十二月にかけて「兎彫始」「兎二丁仕上」などの記事が見えます。御本殿には多数の彫刻があり彫物師が何人も関わっていますが、この兎の記事には「白岩村彫師此吉」と書かれていて、彫刻の製作者とわかります。

# 鎮守の杜　祭りに集う

▼令和４年10月12日　抜穂祭

境内の神饌田で抜穂祭がおこなわれました。六月に御田植えをしてから天の恵みをいただいて、無事に稲刈りの日を迎えました。秋祭りの御神前にお供えします。また近隣農家からは収穫の稲を「懸税」として奉納いただきました。

抜穂祭の稲刈り

懸税

▼令和４年10月13日「中学生神輿」の稽古　秋祭り本番に向けて、倉賀野中の三年生八十余名が参加しました。

神輿の担ぎ手、五色の旗、拍子木などの役割を掛け声高く練習しました。

▼令和４年10月19日秋季例大祭

御社殿前に参列し、神事が厳かにおこなわれました。豊かな秋の実りに感謝するとともに、皇室と国家の繁栄、併せて地域の安全を願い一同が玉串を捧げました。

秋祭りの神楽殿では、地元保存会による太々神楽、小中学生の舞が奉納され、午後には中学生神輿が神社を出発しました。

太々神楽

中学生神輿

▼令和５年２月11日　境内社の冠稲荷初午大祭　新型コロナの感染状況もようやく鎮静に向かい、令和二年の二月以来、三年ぶりの神賑わいとなりました。

福男・福女が神楽殿舞台の上から威勢よく「福投げ」、また卯年生まれの小学五年生四人が豊栄舞を奉納しました。境内では紙芝居「飯玉縁起」の上演や湯立神事もおこなわれ、福を求める大勢の参拝者で賑わいました。

福投げ行事

豊栄舞

紙芝居

福投げ特別御奉賛
・第一屋製パン株式会社　様
・高崎森永株式会社　様
・株式会社原田　様

▼令和５年４月１日　月次祭　毎月一日におこなわれる儀式で、地域の安全と皇室・国家の安泰を祈願します。朝六時半に開式しました。

神事のあと、三月に行われた「祓詞書写体験会」や「ランドセルお祓い式」などのお話が宮司からあり、七時前に散会となりました。

月次祭には、どなたもご昇殿いただけます。お問合せは、社務所☎027（346）2158まで。

### 倉賀野神社奉賛会のご案内

奉賛会に加入して神様の御守護をいっそうに厚く戴きましょう。

◎奉賛会 年会費　正会員　二千円
　　特別会員　一万円

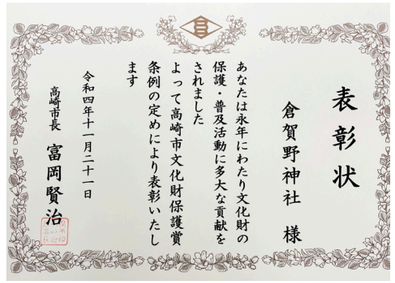
祭典の振興、文化財の保存継承、神域の緑化保全にどうぞお力添え下さい。

お問合せ☎027（346）2158

編集後記　▽瑞兆か！三月、境内でキジと出会ったのにはびっくり。御田植祭に水を張っても、カエルは鳴いてくれない昨今なのだから。▽四方をアスファルトに囲まれているけれど、自然の生命を育む社叢を地域で大切にしていきたい。（直）

## 高崎市文化財保護賞を受賞

令和四年度の高崎市文化財保護賞に倉賀野神社が選定されました。十一月二十一日に市役所で授賞式がおこなわれ、富岡賢治市長から表彰状が授与されました。


表彰状
倉賀野神社　様
あなたは永年にわたり文化財の保護・普及活動に多大な貢献をされました
よって高崎市文化財保護賞条例の定めにより表彰いたします
令和四年十一月二十一日
高崎市長　富岡賢治

表彰式で富岡市長（左）と髙木宮司

受賞の理由について市文化財保護課では、本神社が市指定重要文化財の本殿の維持保存に取り組んでいること、また先年おこなわれた本殿屋根の修繕に際し、神社の歴史や建築の経緯を報告書にまとめたこと等によるとしています。あわせて地域の氏子による祭りの太々神楽や巫女舞等も評価されました。

このたびの受賞は、氏子・崇敬者をはじめ本神社に関わる全ての皆様が受けた栄誉と思います。日頃からお力添えをいただいていることに改めて感謝と御礼を申し上げます。

倉賀野神社・紙芝居

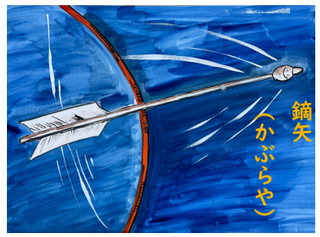
## 「大国主神の冒険」

前回までのあらずじ　大国主神（大国主命ともよびます）は因幡の白兎を助けてあげた後、意地悪な兄たちから逃れて、根之堅州国（根の国）へと向かいました。

根の国を支配する須佐之男命には須勢理姫という美しい娘がいて、大国主と姫の二人は、一目で恋に落ちてしまいます。

ところが姫の父親の須佐之男命は、大国主に無理難題を言いつけて、困らせます。蛇が何匹も群がっているような恐ろしい所に寝るように命令したり、ムカデが這いまわり、毒蜂がブンブン飛んでいる部屋に閉じ込めたりするのです。しかし大国主は姫の知恵を借りて何とか無事に切り抜けることができました。

またある時、枯れ野に向かって須佐之男命が放った鏑矢を大国主が拾いに向かうと、そこに突然火が燃え上がりました。あっという間にまわりを火に囲まれて、大国主は絶体絶命に。すると、どこからか鼠が現れて「内はほらほら、外はすぶすぶ」と言うので、その辺りの地面を踏んだところ、大国主は地下の穴に転げ落ちました。お蔭で穴の中に隠れて、火から逃れることができたのです。




それから後もさんざん危ない目に遭いましたが、大国主は試練を切り抜けました。そしてある日、須勢理姫と連れだって「黄泉つひら坂」という坂を駆け上がりました。そこは根の国と地上の国の境目といわれるところです。それを見た須佐之男命は坂の上に向かって、大声で「こいつめ、お前は大した立派な奴だ。これからは地上の国造りに励めよ！」と呼びかけ、二人を送り出してくれたのでした。

（おわり）

倉賀野神社の御祭神の大国魂大神は大国主神の荒魂とも言い伝わり、また神社の境内には甲子大黒天がまつられています。





## 三人の「倉賀野さん」が、神社に

### 倉賀野さんのつどい

「倉賀野」の地名と同じ姓の方々が全国にいます。

今年の三月、三人の方がここ倉賀野の地に集まりました。長野県千曲市の倉賀野洋二さん（81）、千葉県松戸市の倉賀野晃一さん（52）、前橋市五代町の倉賀野一康さん（74）の三人です。神社の参集殿でしばし懇談をしました。

「全国の倉賀野さんが、この倉賀野に集う機会があれば」という思いから、町在住の有志の皆さんが声かけをして、今回、第一回目が実現したものです。

### 倉賀野町に「倉賀野さん」は、いる？

残念ながら現在、この倉賀野町には「倉賀野さん」のお家は一軒もないかと思われます。倉賀野に住む者からすると、お名前が「倉賀野さん」と聞くとうれしくなり、その姓の由来や、どこにお住まいかなどと、つい尋ねたくなります。

また「倉賀野さん」の側からしてみると、倉賀野町がもしかして自分のルーツではないかという思いがあるかも知れません。はるばる遠方から来て、社務所に話しかけてくる倉賀野さんもいます。苗字は「倉ヶ野」、「倉鹿野」、「倉加野」などの表記もあります。

### 「私は倉賀野と申します」

さて千曲市の倉賀野洋二さんは、松戸市の晃一さんの亡父辰也さんの弟にあたり、洋二さんと晃一さんは叔父、甥の関係ですが、この倉賀野の地で二人して同席するのは、また特別の思いといいます。

洋二さんは、「ずっと以前に神社の先代の髙木明宮司から、町の歴史を教えてもらった」と話します。神社の境内社冠稲荷さまのお祭りの「福投げ」に参加したこともあり、洋二さんが神楽殿の上から「わたしは倉賀野と申します」と自己紹介した時には、境内の参拝者一同がびっくり。すぐに大きな拍手がわき起こりました。また洋二さんは当地の郷土史研究会「倉賀野宿の会」の例会にもたびたび参加しているということです。

### 江戸時代、米沢藩の倉賀野氏

洋二さん、晃一さんの先祖の墓所は山形県米沢市の西明寺にあり、米沢の初代は倉賀野長左衛門統基という人です。

倉賀野家は代々上州の倉賀野城の城主でしたが、戦国時代の上杉・武田の攻防のさなかに城は落ちて、長左衛門統基は越後の上杉氏を頼ることに。その後は上杉氏に従い会津、さらに米沢へと移り、その子孫は幕末まで上杉氏の重臣をつとめたということです。

松戸の倉賀野晃一さんは、以前に博物館で米沢城下の藩士の屋敷割絵図を見たとき、「倉賀野」の家名を見たことが記憶に残ると話しています。

### 倉賀野家の遠祖

米沢の倉賀野家、そして前橋五代の倉賀野家、いずれも遠祖は秩父の武士団である児玉党の流れをくむ、倉賀野三郎高俊という人にたどりつきます。鎌倉時代の建長五年（一二五三）に三郎高俊がこの地を領知することになり、倉賀野を名乗ったのが始まりといわれます。

三郎高俊は飯玉宮（いまの倉賀野神社）を造営した人物でもあります。

### 五代町の倉賀野さん

前橋市の倉賀野一康さんは近年まで五代町で「倉賀野牧場」を経営していたので、牧場の名を記憶する方がいるかも知れません。

先祖が五代に居を移した経緯は詳らかでありませんが、やがて厩橋城主酒井氏に奉公しています。そして寛延二年（一七四九）に酒井家が姫路に転封となり、五代の倉賀野家は主家に従うものと、前橋に残り帰農するものの二手に分かれたといいます。

### 前橋と姫路をつなぐ「槍」

昭和四十年の朝日新聞群馬版の記事を一康さんが見せてくれました。そこには「別れの際、ヤリの柄を折り、お互いの子孫に伝えることを誓ったが、姫路から札幌に移住した倉賀野家が大正初期、ヤリの柄を持ちはるばる五代の倉賀野家をたずねて、ぴたり合う折れ口に、歓声あげ、何代ぶりかの再会を喜んだ。」とありました。この槍は、同じ五代町の倉賀野三之助さんの家に伝わっているとのことです。